

## ■ 2014年公開企画

みんなせい駒場班が2014年に開催した公開企画の一覧です。作成した講演録の内容もご覧ください。

### 日本学生支援機構の奨学金の真実 ～教育格差はなくせるか～

2010年度、奨学金受給者の割合が50.7%となり、ついに過半数となった。今、奨学金という名の借金をしながら大学に通う学生が激増している。そして、奨学金の返済に苦しみ、返済できない人が増えている。私たちはどうしたら良いのか。

- ▶ 開催日 2014年4月18日（金）
- ▶ 講師 「奨学金問題対策全国連絡会」共同代表・中京大学国際教養学部教授 大内裕和氏

●2014年 新歓シリーズ企画「大学でどう学ぶか」②

**日本学生支援機構の  
奨学金の真実**  
～教育格差はなくせるか～

「奨学金問題対策全国連絡会」共同代表  
・中京大学国際教養学部教授  
**大内裕和**

2010年度、奨学金受給者の割合が50.7%となり、ついに過半数となった。今、奨学金という名の借金をしながら大学に通う学生が激増している。そして、奨学金の返済に苦しみ、返済できない人が増えている。私たちはどうしたら良いのか。



大内裕和（おおうちゆうわく）：1967年生まれ。東京大学国際教養学部教授（国際教養学部）博士課程修了。専門は教育研究。著書に『日本の奨学金はこれでいいのか～奨学金という名の借金の真実』(2011年、中公新書)、『奨学金の真実』(2012年、中公新書)など。最近の『奨学金の真実』(2014年4月)「奨学金の真実」(中公新書)に収録。

[講演録を見る](#)  
[ダウンロード \(PDFファイル\)](#)



みんなせい

TEL 090-6700-9835  
Twitter @minkoma1  
ブログはこちらから

### 駒場祭シンポジウム『日・中・韓 歴史の共有は可能か』

いまからちょうど10年前、北東アジア研究者と市民の手によって、はじめて日中韓共通の歴史教科書をつくる試みがなされた。し

@minkoma1からのツイ

みんせいは、平和・環境・人権・社会科学など、様々な社会問題を事実に基づいて科学的に学び、社会をよくしていくために、できる範囲で行動しているサークルです。

## みんせい東大駒場・本郷班 公式サイト

HOME

ブログ

みんせいとは？

みんせいの活動

保有過去問一覧

リンク

お問い合わせ

### ■ 2014年の活動一覧

#### 2014年 新歓シリーズ企画「大学でどう学ぶか」②

##### 日本学生支援機構の奨学金の真実

##### ～教育格差はなくせるか～

2010年度、奨学金受給者の割合が50.7%となり、ついに過半数となった。今、奨学金という名の借金をしながら大学に通う学生が激増している。そして、奨学金の返済に苦しみ、返済できない人が増えている。私たちはどうしたら良いのか。



講師：「奨学金問題対策全国連絡会」共同代表・中京大学国際教養学部教授 大内裕和  
1967年神奈川県生まれ。東京大学大学院教育学研究科（比較教育社会学）博士課程終了。専門は教育研究。著書に『日本の奨学金はこれでいいのか！—奨学金という名の貧困ビジネス』（2013年、あけび書房）、『愛国心と教育』（2007年、図書センター）など。最近『現代思想』2014年4月号「特集＝ブラック化する教育」に寄稿。

司会 本日は、「日本学生支援機構の奨学金の真実」ということで、中京大学の大内裕和さんをお招きしました。さっそくですが、よろしくお願いします。

### はじめに

大内 よろしくお願ひします。「日本学生支援機構の奨学金の真実」というテーマで話してほしいということですので、お話ししたいと思います。ちょっとだけ自己紹介すると、私は現在愛知県の中京大学というところの国際教養学部で教えているんですが、この東京大学の本郷にある教育学研究科の出身です。だから、本郷の大学院を出ています。

駒場との関係でいうと、1995年だからもう20年ぐらい前ですね、ご存知かどうかあれですけども、東大の教育学部に藤岡信勝という先生がいました。その人がアメリカの留学から帰って来た時に、ちょうど湾岸戦争問題があって、日本もそれに対して

1945・2015  
戦後70年



みんせい東大駒場・本郷班



ら、これはわかるでしょ、いっぺんに全部返済しないと元本が返済されないんです。年利10%がついちゃうから、論理上は元本の10%以上のお金が出せないと、半永久的に延滞金を支払い続けることになるわけ。これもわかっていないよね。月に1万円とか2万円とか返しても、全て延滞金にあてられて、全く元本は減らないということになります。

僕がやった電話の調査では、58歳で返済が終わっていないという人がいました。その人の残りの額を聞いたら、一生かかっても返せないんです。だから、奨学金を一生かかっても返せないという人が出てきているわけ。返せないのに、延滞金がかさんでいくから。こうなっている。

### ●これはもう「貧困ビジネス」

もう一つは、返還したこの利息と延滞金は一体どこに行っているんだということを学生は知らないよね。2010年度の利息収入は232億円で、延滞金収入は37億円ですけど、これらの金は経常収益に計上されて、原資とは無関係のところに行くんです。日本学生支援機構とか高校とか大学は、みなさん方の返還金が将来の学生のための原資になりますと言いますが、ウソだよ。ね。原資になるんだったら、元金だけで良いはずなんです。元金があれば、その分でいけるじゃない。利子と延滞金はどこに行くの。利子は金融機関に行っているんです。延滞金は債権回収会社に行っているんです。日本学生支援機構じゃなくて債権回収会社を取り立てているんだから、取り立て資金にまわるわけ。延滞金を払えば払うほど怖い取り立てが来るわけ。

親の時代と全然違うからね。日本育英会の時は、返さなくて踏み倒せたんだから。今違うでしょ。財務省から毎年ガンガンやられる。特にこの3~4年前からだよね、返せと職場に電話がかかってくる。一応我々が押さえているのではもう、給与の差し押さえまで行っているから。奨学金が理由で給与をもらえないんです。もう言いたくないですけど、何じゃそりゃみたいな。それをわからないで借りている学生がいっぱいいるわけ。利息と延滞金は元金に行くわけじゃない。わかるよね、元金は元金分なんだから。しかも返済の時は元金からいかないんです。延滞金と利息からいくんだから。それで、どんどんどんどん銀行と債権回収会社が儲かるわけ。完全に金融資本なんです。学生はもう債権なわけ。みなさん方は儲けるための手段とされている。それが金融に回って金融機関が儲かっているわけ。奨学金でも何でもありません。

2010年度期末で民間銀行からの貸付残高は大体1兆円で、年間の利払いは23億円です。債権回収は、同年度約5万5000件を日立キャピタル債権回収など2社に委託していて、16億7000万円を回収していて、そのうち1億400万円が手数料として支払われています。だから儲かっているわけ。奨学金は奨学事業じゃなくて、「金融事業」で、なおかつ奨学金を借りている人は、経済的に厳しい家庭の出身者が多いんだから、「貧困ビジネス」でもあるわけ。経済的に豊かでない人を食べ物にしているわけです。だから、貧困ビジネスというふうに私は言っています。

14

15 2014年4月 東大講演  
大内氏講演録

### 3. 上昇し続ける大学学費と経済的困難

#### (1) 初年度納付金